



令和5年 3月26日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

前売開始：令和5年 1月6日(金) 午前10時～

料金：全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階後席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

・ご自身の身近に新型コロナウイルス感染症に感染した方、またはその可能性のある方がいらっしゃるお客様、入管法に基づく入国制限の対象となっている地域から日本への入国後14日間経過していないお客様のご来場はお断りいたします。
 ・会場入り口前で手指の消毒、検温を実施させていただきます。体温が37.5℃以上の方、あるいは体調の悪い方のご来場はお断りさせていただきます。

主催：公益財団法人十四世六平太記念財団

協力：一般社団法人喜多流職分会

後援：品川区、品川区教育委員会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会

喜多流 自主公演

令和五年 三月

花湯 項

月谷 三

谷 大 村 定 高林 呻 二

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意 ※新型コロナウイルス感染の地域における動向や政府等の通達などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂する場合がございます。

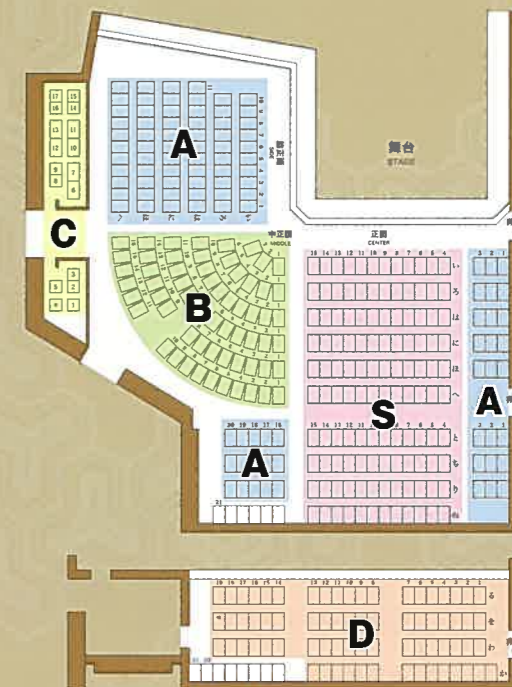
- ・開演中の途中入場はお断りいたします。・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・感染防止のため、2階ラウンジでの飲食は短時間にてお済ませくださいようお願いいたします。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

当能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。
 なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきますので、ご来場の前には当能楽堂HPにてご確認ください。
 お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染対策ガイドライン
<http://kita-noh.com/covid-19-guidelines/>

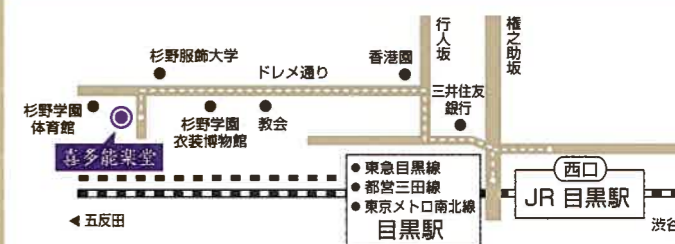


自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階後席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
 目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
 ※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車での来場はご遠慮いたします。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9
 TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999
 喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>

喜多能楽堂改修工事について

喜多能楽堂改修工事の為、令和5年度自主公演(令和5年5月～令和6年3月)の会場は **観世能楽堂** となります。

- ◆ 指定席券前売開始 令和5年2月1日(水) 午前10時～
- ◆ 令和5年度は全7回公演になります。
- ◆ 令和5年度 喜多流自主公演年間優待券(税込)
 7枚綴 56,000円 / 5枚綴 40,000円
 発売開始 令和5年1月8日(日) 午前10時～
- ◆ 会場 観世能楽堂 観世能楽堂ホームページ▶▶▶



能

花月

シテ花月谷 大作

ワキ・旅僧 御厨誠吾
アイ・清水寺門前の者 三宅右矩

大鼓 柿原弘和
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 栗林祐輔

後見 友枝昭世
内田安信

金子龍晟 粟谷浩之
佐藤寛泰 金子敬一郎
塩津圭介 粟谷明生
高林昌司 内田成信

狂言

井碓

シテ勾当 三宅近成

アド・菊一 高澤祐介
小アド・使いの者 金田弘明

休憩(二十分)

能

湯谷

シテ連・朝顔 友矩
シテ・湯谷 大村 定

ワキ・平宗盛 宝生欣哉
三段之舞 ワキ連・宗盛の従者 宝生尚哉

大鼓 柿原光博
小鼓 曾和正博 笛 槻宅 聡

後見 塩津哲生
粟谷浩之

金子龍晟 粟谷充雄
佐藤陽 長島茂
塩津圭介 出雲康雅
狩野祐一 大島輝久

休憩(十分)

仕舞

松山鏡

内田成信

地謡 佐藤寛泰
金子敬一郎
友枝雄人
友枝真也

能

項羽

シテ連・虞氏の霊 高林昌司
後シテ・項羽の霊 高林呻二
前シテ・舟人

ワキ・草刈男 則久英志
ワキ連・草刈男 小林克都

アイ・烏江の者 前田晃一

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 住駒充彦 太鼓 澤田晃良
笛 成田寛人

狩野祐一 佐々木多門
佐藤陽 狩野了一
友枝真也 中村邦生
谷友矩 友枝雄人

附祝言

後見 香川靖嗣
松井 彬

地謡

終了予定時刻 四時四十分頃

花月(かげつ)

七歳の時に天狗隠しに遭い行方知れずとなった息子を捜すために出家をした父親は、故郷の九州彦山から諸国行脚に旅立つ。ある年の春に京都の清水寺を詣でたところ、居合わせた門前の男に何か面白いものはないかと尋ねると、花月という名前の少年が居るといふ。やがてやって来た花月と門前の者が小歌をうたうたうたうたうた、驚が来て花を散らすので弓矢で狙うが仏の殺生戒を破つてはいけないと思いとどまる。また、清水寺縁起の曲舞を舞ったりして興じる。その様子をみていた旅僧は、花月が我が子ではないかと思ひ始め、やがて確証を得て父だと名乗り出る。花月は父との再会を喜び、門前の者はお別れに羯鼓を所望し、花月は羯鼓を打って、天狗にさらわれてからの身の上を語りながら舞い、そして父とともに修行の旅に出るのであった。

(約六十分)

井碓(どぶかつちり)

勾当と菊市の2人の盲人が上京する途中、川に差しかかります。渡り瀬を知ろうと菊市が水面に磔を打ち、その音の違いで浅瀬が分かると、勾当が菊市に背負われて川を渡ろうとします。そこへ通りがかった使いの者が、勾当の代わりに菊市の背に乗り川を渡ってしまいました。ようやく渡ったところを呼び戻された菊市は、勾当を背負って川に入ると、深みにはまらずぶぬれになってしまいます。勾当は寒さを凌ごうと菊市に酒をつがせるのですが…

(約二十分)

湯谷 三段之舞(ゆやさんだんのまい)

遠江国、池田の宿の長である湯谷は、平宗盛の側に仕えていた。故郷の母の病状が思わしくなく、故郷に帰りたいと休暇を願い出ているが、宗盛は今年の花見までは一緒に過ごそうと言って、聞き入れない。ある日、故郷より侍女の朝顔が母の手紙を持って訪れる。手紙には今生の別れの前にひと目でも会いたいと書いてあった。湯谷はその文を宗盛に見せて暇を願う。しかし宗盛は許さず、即刻花見のお供をさせる。そして一行は清水寺に花見に向かい、花の下で酒宴となり宗盛の所望で舞を舞う。周りの人々は春の装いに色めき立っているが、湯谷の心は重い。心ここに在らずも舞を舞っていると、急に春の通り雨が降り、花を散らす様子を見て母への思いが募る。そしてその思いの歌を短冊にしたため、宗盛に差し出す。さすがの宗盛も哀れと思ひ、暇を与える。湯谷は喜び、宗盛が心変わりしないうちにとその場より遠江国に帰っていくのであった。

(約九十五分)

※「三段之舞」の小書がつくと中之舞の構成が常と変化し、湯谷の早く故郷へ帰りたい気持ちを表現します。

項羽(こうう)

中国、烏合(うごう)の野辺の草刈男が秋草を刈って家路につくところ、ちょうど居合わせた老人の操る船に便船を乞う。船賃は要らないというので草刈達は舟に乗船、ゆつくりと舟は出るのだった。老人は露のしとどにおいた秋草の群れに夕月が宿るの感慨深く見入っていた。やがて舟は対岸に着くと、草刈男一人を呼びとめ、あらためて船賃を所望した。船賃と云つても持っている草花を一本ほしいというのである。老人は草刈男が差し出した草花の束から、躊躇なく朱色の一本の花を抜き取る。その理由を尋ねると、「この花は楚の項羽妃、虞氏を弔ったところから生えた美人草だ」と言う。項羽が漢の高祖に七十余度連戦連勝したが、この烏合の戦いでは項羽の兵が皆心変わりをして利ならず、自分で自分の首をはねて果てたことを語り、自分が項羽の霊だと明かしあとを弔ってほしいと頼んで姿を消す。(中入)草刈男の夜の夢に、矛を持った項羽と虞美人の霊が在りし日の姿で現れ、四面楚歌の中、高樓に登って身を投げた虞氏との別れ、焦燥の苦戦と悲憤の自刃を再現して、最後の戦いの場面を見せて消えていくのであった。

(約六十分)

令和五年 五月 自主公演番組予告

令和五年 五月六日(土) 正午始

観世能楽堂

前売開始 令和五年二月一日(水) 午前十時

玉井 狩野 了一
楊貴妃 塩津 哲生
熊坂 佐藤 陽